

ごてんざん 知られざる五天山物語

西区平和・福井両地区の間に、五天山という高さ303.5㍍の小山があります。昭和の初めまでは全く無名の山でしたが、昭和10年以降その不思議な歴史を刻み始めます。今月はこの五天山の話です。



▲昭和10年、五天山の山頂に集まった人々。真中に立つ白装束の人が、お告げを聞いた井上弥一郎さん

夢に出てきた不思議なお告げ

昭和十年（一九二五年）、

れました。

天田さんは、「当時、た

農業を営む井上弥一郎さん

だ手伝ってくれと言われ、

の夢枕に大国主大神が立ち、

山頂まで人が通れるように、

「我を手稲の里、西野の山

に祭れ」とお告げがあつた

そうです。井上さんは、そ

うかまを持つて笹を刈りに行

れまでもお告げを得たり、

きました。神を祭るとか、

人々の相談に乗ったりして

そういうことは詳しく聞い

いたとも言われています。

ていませんでした」とその

井上さんは、地元の安井

時様子を振り返ります。

廣さん、野村村栄さんらと

かまを持って笹を刈りに行

相談した結果、佐々木千代

きました。神を祭るとか、

松さんの持つ山に祭るのが

山頂まで人が通れるように、

最もふさわしいということ

になりました。

になり、山の頂上にみんな

でほこらを作りました。中

の時、仏典から引用して、

は体が丈夫でなかつたため、

祭迦の国インドの山を意味

に尽力したようです。中

して

に健康祈願のつもりで参加し

ました。

た人もいたそうです。馬を

在ほとんどの方は亡くなつ

使つて山頂まで大きな石を

ていますが、一人だけ今も

幾つも運ぶなど、かなり大

変な作業だったと言います。

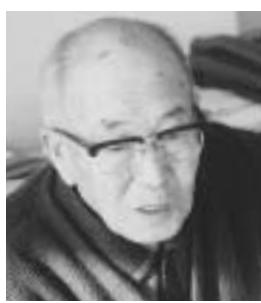
また、夢のお告げで「台

十五歳だった天田春治さん

石と立石がある」と言われ

す。現在は八十二歳になら

ました。



▲天田春治さん